THE INTERNATIONAL ASSOCIATION OF Y'S MEN'S CLUBS
JAPAN EAST REGION TOHSHIN DISTRICT
TOKYO MACHIDA COSMOS

東京町田コスモスワイズメンズクラブ

TO ACKNOWLEDGE the DUTY THAT ACCOMPANIES EVERY RIGHT.

「強い義務感を持とう 義務はすべての権利に伴う。」

2026年11月号
第364号

THE COSMOS

Chartered in May 1996

【今月のことば】



「わたしを信じる者は、聖書に書いてあるとおり その人の内から生きた水となって 流れ出るようになる。」

ヨハネによる福音書7章38節
兼松豊選(京都上鳥羽教会牧師)

2026－2027年度主題

クラブ会長 山口和彦	「地域に開かれ根付く活動を！」「ユースと共に知と愛で明日を拓こう！」
東新部部長 深尾香子	「顔を上げよう！」
東日本区理事 山下　真（十勝）	「挑戦なくして進化なし」
アジア太平洋地域会長 ラチャン・マニカーン	「アジア太平洋地域をブルーミュージックで目覚めさせる」
国際会長 J・W・エルトヴィク	「ブルーミュージックで眠れる巨人を目覚めさせる」

【11月の強調テーマ】　BFiGO/STEP（環境問題の意識をたかめよう、マラリア撲滅運動を支援しよう

11 月合同例会プログラム

（東京町田コスモスクラブとの合同例会）

日時：11 月 4 日(水) 19:00～20:30
会場：玉川学園コミュニティセンター
（小田急線「玉川学園前駅」徒歩 2 分）
会費：なし（夕食はありません）
（オンライン Zoom でのご参加も可能です）

《プログラム》
司会　為我井輝忠　　受付　鳩山徹郎
＊開会点鐘　　綿引会長
＊ワイズソング
＊今月のことば　石田孝次
＊ゲスト／ビジター紹介　綿引会長、山口会長
＊会長挨拶　綿引会長、山口会長
＊スピーチ　　小野 実さん
「2026 年熊本地震支援に学ぶ有事に備えた仕組み作り」
＊チーム報告
＊YMCA ニュース、各種アピール
＊スマイル
＊ハッピーバースデー
＊YMCA の歌
＊閉会点鐘　山口会長

巻頭言：疑問のはじまり　　山口和彦



今年もノーベル賞の発表の季節が来て、日本人の砂合憲三（そあいけんぞう）さんが化学賞を受賞しました。内容はここでは触れませんが、基礎科学における研究の動機は「なぜ？」「不思議だ！」という疑問や感動にある、といってもよいでしょう。この「なぜ？」「不思議！」という気持ちは3－4歳の幼児から認められるもので、こだわるのは人間特有と考えられています。10万年以上前から「どうしてお日様は動くの？」「なぜ月は形が変わるの？」という幼児の問いに、親は悩まされたことでしょう。わたしたちはこの疑問の始まりを大切なことと考え、育てていきたいと考えています。そんな思いで東京町田YMCAでは「わくわく！サイエンス実験教室」を続けています。そして自分なりに理由を考え、手を動かして実験してみるとその通りになったり、予測が外れたり、といったわくわく感を大事にしていきたと思っています。いつか「町田わくわく！サイエンス実験教室」のOBOGが、ノーベル賞を...なんてことは考えていませんが。

11月Happy Birthday：　該当の方はいません

10月データ

在籍	8 名	例会出席	メン	5 名	BFポイント		
出席	6 名		メーキャップ	0 名	切手	0 g	
			出席率	75 %	累計	0 g	
			メネット	0 名			
			ゲスト ビジター	1 名			

町田コスモス		
にこにこ	6,600	円
年間累計	17,271	円
健康ファンド	0	円
総累計	122,500	円

10月第一例会

日時：2026年10月1日（木）17：30～19：30
場所：和光大学ポプリホール3F会議室

出席：山口、権藤、諏訪、加藤、富樫、ビジター：峰さん（多摩スマイル）

10月第一例会の会場は小田急線鶴川駅から徒歩5分の和光大学ポプリホールの会場で行いました。たいへん立派な施設の中で行う例会はまた、格別にいいものです。ただ使い勝手が分からずに戸惑うこともありましたが、なんとかフェローシップの時間にお弁当を頂きながら、セッテイングしていつも例会ができました。

さて、今回の卓話者は以前に認知症についての学びがあった多摩スマイルの峰ワイズです。今回はその認知症の対応についてＹＭＣＡやワイズの活動がいかに関係しているか、または貢献しているかという福祉面について視点をおき、コラボのお話でした。

さまざまな実例や実践ケ―スから見えてきたか、それは歌声ひろばやってきたことが認知症のサポート支援になっていたとい見方でして、それが非常に面白い話でした。ところでこの認知症、なぜ、認知症の人が突然、外へ出てしまうのか、ということについて詳しくお話がありました。

認知症の方が夜間に外出し、行方不明になる背景には例えばかつて会社勤めをしていた本人がすでに退職しているのに認識が曖昧になり「会社に行かなければならない」というかつての日常が現実のこととして感じてしまい、突然に外出していまうケースがある。家族が寝静まった夜中でも、本人にとっては、会社に出勤したつもりが帰り道がわからなくなり、暗い道を歩いていて側溝に転落事故に遭ったりするというお話でした。

具体的なお話と認知症サポートの重要性を知るよい時間になり、充実した例会になりました。







10月第二例会

日時：2026年10月16日（金）18：00～19：30
場所:オンライン　（ZOOM）

出席　山口、加藤、富樫

10月31日に例会会場で使用している玉川学園コミュニティセンター会場が「玉川学園CCまつり」の場所になりました。町田YMCAがブース出展するので内容を打合せしました。出展内容は歌声ひろば、清風食堂、わくわく！科学実験室の活動写真やその展示物、ベテランティアフォーラムにおいて認知症サポーター養成講座、過去に開催した加藤ワイズのカトー折りを活かして、段ボールから簡易トイレや新聞紙からスリッパをつくり、展示することにしました。

このほかに、11月6日霊南坂教会を会場としてリーダーOBに声をかけて元YMCAリーダーである兼松豊さんのコンサートをサポートすること、11月16日認知症サポート養成講座のアピールのこと、また多摩スマイル合同例会の段取りについて確認しました。

町田わくわく！科学実験教室
山口和彦

10月17日（土）、町田市民フォーラム４Fにて「町田わくわく！サイエンス実験教室が、年長さんから小学4年生までの９人の参加のもと、実施されました。今回のテーマは「サビとメッキ」でした。「サビ」とは何か、答えられる子は何人かいましたが、メッキは誰も答えられませんでした。まずは見慣れた古い銅貨のサビを落とそう、ということで秘密の赤い液体が配られ、綿棒につけ、古い銅貨をこすると、あら不思議、ピカピカの銅の色に戻りました。部屋に戻ってきたお父さんの一人が「なんだ？この匂いは」とおっしゃって私たちはすでに馴化してわからなくなっていたことに驚きました。この赤い液体はタバスコでした！次に皆安全ゴーグルをかけビニール手袋をして「メッキ」の実験です。銀色のプレートに遮蔽用のシールは貼ります。自分や家族のイニシャル、好きな記号など自由に張り、メッキ液の中に垂らす電流を流すと、泡が出て、銀色のプレートが赤金色に変わっていきます。数分後、引き上げ水で洗うと自分のデザインしたアクセサリーができました。メデタシ メデタシ.



清風園のお祭り
山口和彦

10月4日（日）、町田市の社会福祉法人賛育会の特養施設、清風園のお祭りがあり、ボランティアとして町田YMCAから2名が参加しました。高齢の利用者の方が社会的接触を図る、という意味で、受付で来所のお客さんに記念品を配る企画のお手伝いでした。記念品を渡そうとしてもヒジがあがらなかったり伸びなかったり、といった方のヒジをそっと下から支えてあげるようなことをしていました。高齢の、特に女性の方は、幼児に「ありがとう」と言われ、手を振ってもらうと、本当に満面の笑顔になりました。30分で交代し、部屋に戻るというのが当初の計画だったそうですが、お庭で何やら楽しそうやっているキッズダンス、中学生の吹奏楽、大人のフラダンスを見学してもよいことになり、車いすを押して見学しました。フラダンスでは「皆さんもご一緒に」と言われると車いすの上で手を踊り手に合わせて振っていました。とても貴重な体験をさせていただきました。10月15日のにこにこ清風食堂の販売のお手伝いには4名が参加いたしました。



11月合同例会
卓話者　小野　実さん　紹介

2026年4月より、二度目の日本YMCA同盟への出向となりました。最初の2010（～2012）年度は東日本大震災が発災し、今年度も7月に熊本地震が発災しました。各地で大きな被害をもたらす震災はそれだけではありませんが、日本YMCA同盟という組織にいる間に対応を求められる震災があるというのは、悲しいことではありますが、努めなければならない仕事だと思っています。2026年熊本地震では、熊本YMCA本館のある熊本市より40キロほど離れた八代エリアに大きな被害が出ました。YMCAの拠点がないエリアでしたが、熊本YMCAはいち早く被災者支援を始め、過去の震災での避難所運営の実績もあることから、「最後まで残る避難所はYMCAに委託したい」と八代市の信頼を得て避難所運営を受託します。それが、「トヨオカ地建アリーナ（トヨオカ）」と「鏡コミュニティセンター（鏡コミセン）」の二拠点です。これまで、避難所は行政が行うのが一般的でしたが、民間組織へ委託することが一般的になったと言われています。熊本YMCAと全国YMCAでは、いつどこで起きるかわからない災害に対して、YMCAらしい支援を行う仕組みを作ろうとしています。

スピーチタイトル：「2026年熊本地震支援に学ぶ有事に備えた仕組み作り」
プロフィール：1970年東京生まれ。1993年東京YMCA入職。英語専門学校に始まり、国際ホテル専門学校、にほんご学院、医療福祉専門学校など学校中心に担当。2026年より二度目の日本YMCA同盟へ出向。プライベートでは、30年ぶりに母親との同居生活が始まり、妻への感謝の想いでいっぱいです。

スピーチ概要
国内協力が担当であることから、早い段階で熊本入りし、避難所運営のスタート直前までと実際の避難所運営を経験してきました。その中から、熊本YMCAが目指す、全国協力による災害支援モデルをどのように実現していくかをみなさまと共有したいと思います。

【LeadershipTraining】～今こそ、健全なEMC
(Extension,Membership,Conservation)を育てよう～

早くも、2026年度も11月に入りました。今期、山口和彦ワイズを会長にメンバー８名でスタートし、早々に同月26日に、当初”東京コスモスクラブ”として創立し、”東京まちだクラブ”を合併し「東京町田コスモスクラブ」となり、30周年の記念例会をダブル台風の合間にDBC宝塚クラブの熱い参加を始めとし、多くのワイズメンとＹＭＣＡ関係者の祝福と励ましを頂き感銘の中での開催となり、8月例会に東新部深尾香子部長と3役の公式訪問を迎え、9月は、ペナン国際大会に現地参加し、マレーシアIBC(国際兄弟クラブ)シルバーステートクラブメンバーとも親しく長年の交流を温め、東京クラブ・東京むかでクラブ合同例会・東京グリーン例会に出席し交流することも出来ました。
当クラブの東京町田ＹＭＣＡの地域活動も順調に展開し、更に魅力的な奉仕プログラム・開催活動方法の更新も始まっています。しかし、YMCA支援や地域活動の潜在的需要にクラブ員の手の供給不足の状況は課題です。国際的にみても、何処の地域のクラブも状況は、特例(70名余のクラブ)もありますが、略同じと受け取れます。
その中、YMIのJ.V.Eltvik国際会長のBlue ”Music of　Value,Change and Goodness”は頼もしい希望の励ましとなっています。
その情勢の中で、北東部の新しいYMCAとそれを支える新しいワイズメンズクラブ設立への逞しい志と挑戦には、敬意を表し、可能な応援で繋がり、同時に昨今各地域の激しく変動する中の課題を共有し、わがクラブのEMCにどのように反映できるかを学び、自クラブとその活動を逞しくする糧として、次年度へのリーダーシップ継承と会員増強の備えを、今期残りの12月～6月の活動に意識して活用出来ないかと感じています。
クラブの活動に必要な　”健全な機能を維持する”ことを意識しつつ、昨今の社会・コミュニティーの変化をワイズリーに、健やかに乗越えたいと考えさせられています。各メンバーとご家族のご健康もお祈り申し上げる次第です。

権藤徳彦(直前会

東京YMCA報告

1.熊本で7月28日に大規模な地震が発生し、緊急支援募金を全国YMCAで一斉に開始した。東京YMCAではＨＰやメールマガジンで募金協力を呼びかけている他、下記の通り街頭募金を実施した。
8月4日（火）17時～18時 高田馬場駅周辺
参加者24名 募金額 ￥150,323
8月5日（水）18：00～19：00 東雲エリア
参加者33名 募金額 ￥84,036
8月5日（水）17時～18時 新宿駅南口周辺
参加者25名 募金額 ￥77,398
8月6日（木）17時～18時 東陽町駅前周辺
参加者20名 募金額 ￥81,457
8月18日（火）17時～18時 丸の内北口オアゾ前
参加者21名 募金額 ￥43,091

2.熊本地震の復興支援活動を検討するため、8月4日から日本YMCA同盟と東京YMCAの職員（村上祐介会員部・賛助会・募金・ＦＤ室・ウェルネス事業部統括）が熊本市内を中心に被災地の視察を行った。また熊本YMCAは八代市より委託を受け、八代市の2つの避難所の運営を8月17日より開始した。これに協力し、全国YMCAのスタッフが交替で避難所の運営サポートを行っている。東京YMCAからも、8月末までに7人を、その後も12月末頃まで継続して交替でスタッフを派遣する。

3.東京YMCA高等学院が小田原短期大学等と協働で実施している「都市部におけるホタル観賞会（屋内自然体験プログラム）」が、特定非営利活動法人キッズデザイン協議会主催「キッズデザイン賞」を2年連続で受賞した。都心部の子どもたちに本物のホタルの光や生命の営みに触れる機会を提供し、環境教育や世代間交流に寄与する「都市部における自然体験の新たな教育モデル」としての継続的な実践と、大学と社会教育団体の協働による質の高い体験活動の創出が高く評価された。

4.今後の主な行事予定
・「関東大震災第103周年記念追悼合同早天礼拝」
9月1日（在日本韓国YMCA 9階国際ホール）
説教：金 性済牧師
（東京韓国YMCA理事　日本キリスト教協議会元総幹事）
・「第40回インターナショナル・チャリティーラン」
駅伝大会：9月26日（都立木場公園）
オンラインウォーキング大会
：11月下旬～12月上旬（全国YMCA共通）
・「第2回ユニバーサルフェスタ」
10月3日、4日（山中湖センター）
・「J.T.スウィフト主事＆ミラー主事墓前礼拝」
（横浜YMCA共催）10月24日（横浜外国人墓地）
・「第28回愛恵エッセイ」
11月13日まで作品募集（愛恵福祉支援財団との共催）
テーマ： 豊かな福祉社会を創るために
-私たちが今、できること-
・「第24回日本YMCA大会」11月27日～29日（日本YMCA同盟東山荘）テーマ：Evolving Together
・「賛助会年会・アドバイザー会」
11月16日（アルカディア市ヶ谷）

5.深　悼
若槻史郎氏（学校法人東京YMCA前理事長・元公益財団法人東京YMCA理事・名誉会員）8月14日召天
享年82歳　元山手ワイズメン

10/31　玉川学園CCまつり
加藤祐一

10月31日(土)10時から玉川学園祭りが玉川学園コミュニティセンターで行われ、我が町田YMCAのブースが普段の例会会場となっている会議室に出展ブースとなりました。
当日はハロウィーンの日でもあることから賑わっておりました。来場者は歌声ひろばに興味を持って写真をご覧になっておりました。そばには段ボールでつくった簡易トイレをおき、携帯トイレの使い方を説明しました。来場者に新聞紙のスリッパをつくってあげたり、交流がたくさんありました。







「地域に開かれ根付く活動を！」　入稿サイト→
「ユースと共に知と愛で明日を拓こう！」

会長	山口　和彦
書記	加藤　祐一
会計	富樫紀代美
副会長	権藤　徳彦
担当主事	諏訪　治邦

事務所：227-0036　横浜市青葉区奈良町1566-565　山口 和彦気付
第 1 例会 第 1 木曜日 17:30～19:30 ／第 2 例会 第 3 金曜日 18：00～19:30
場所　第一例会 ：玉川学園コミュニティセンター 第二例会：オンライン

会費振込先　【銀行口座】きらぼし銀行　玉川学園支店 0137
店番 060　口座番号5048617 東京町田コスモスワイズメンズクラブ

第一例会、第二例会、活動委員会のZOOMURLは、東日本区会議室サイトからお選び下さい。
https://ys-east.or.jp/member-top/reserve#gsc.tab=0